

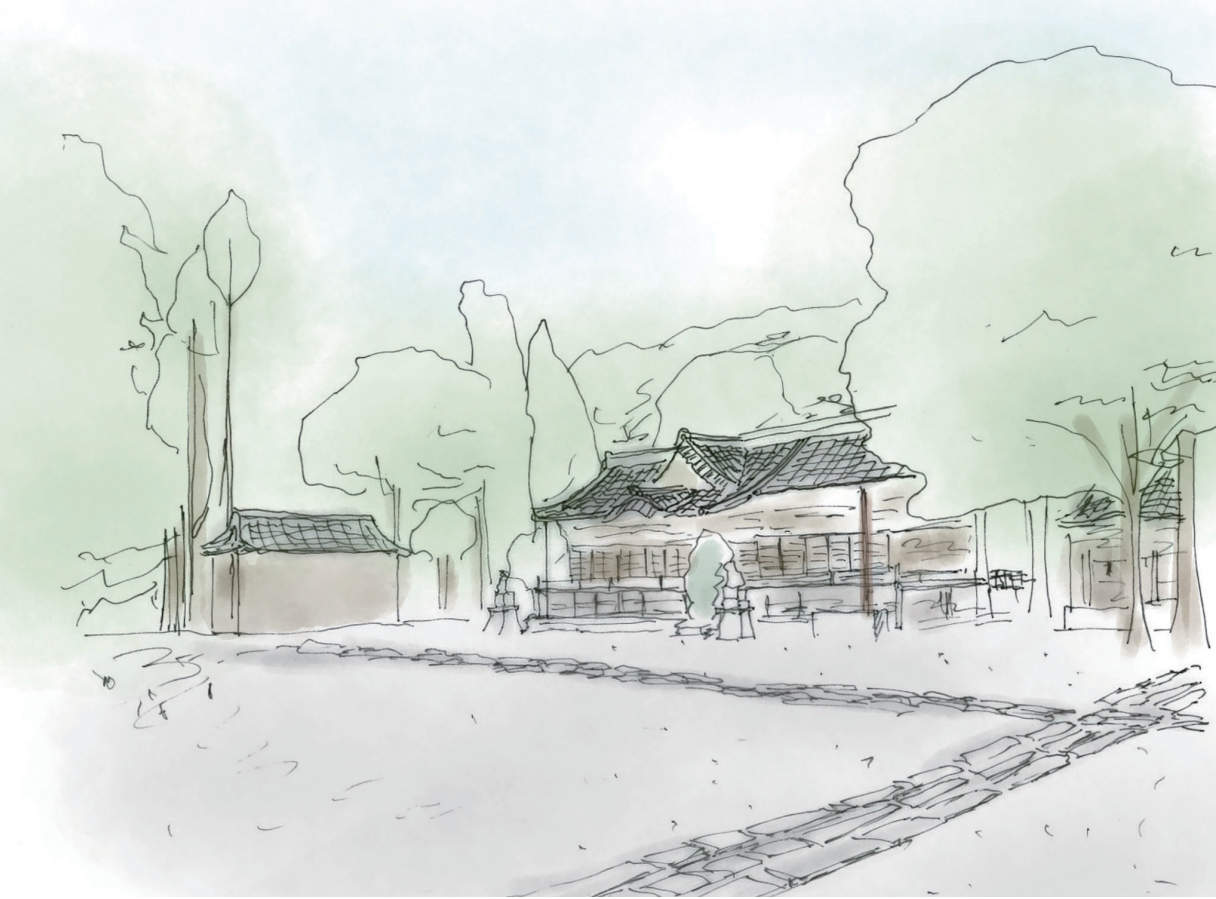
3. 2km/h のまち

19T5043F 藤村咲良

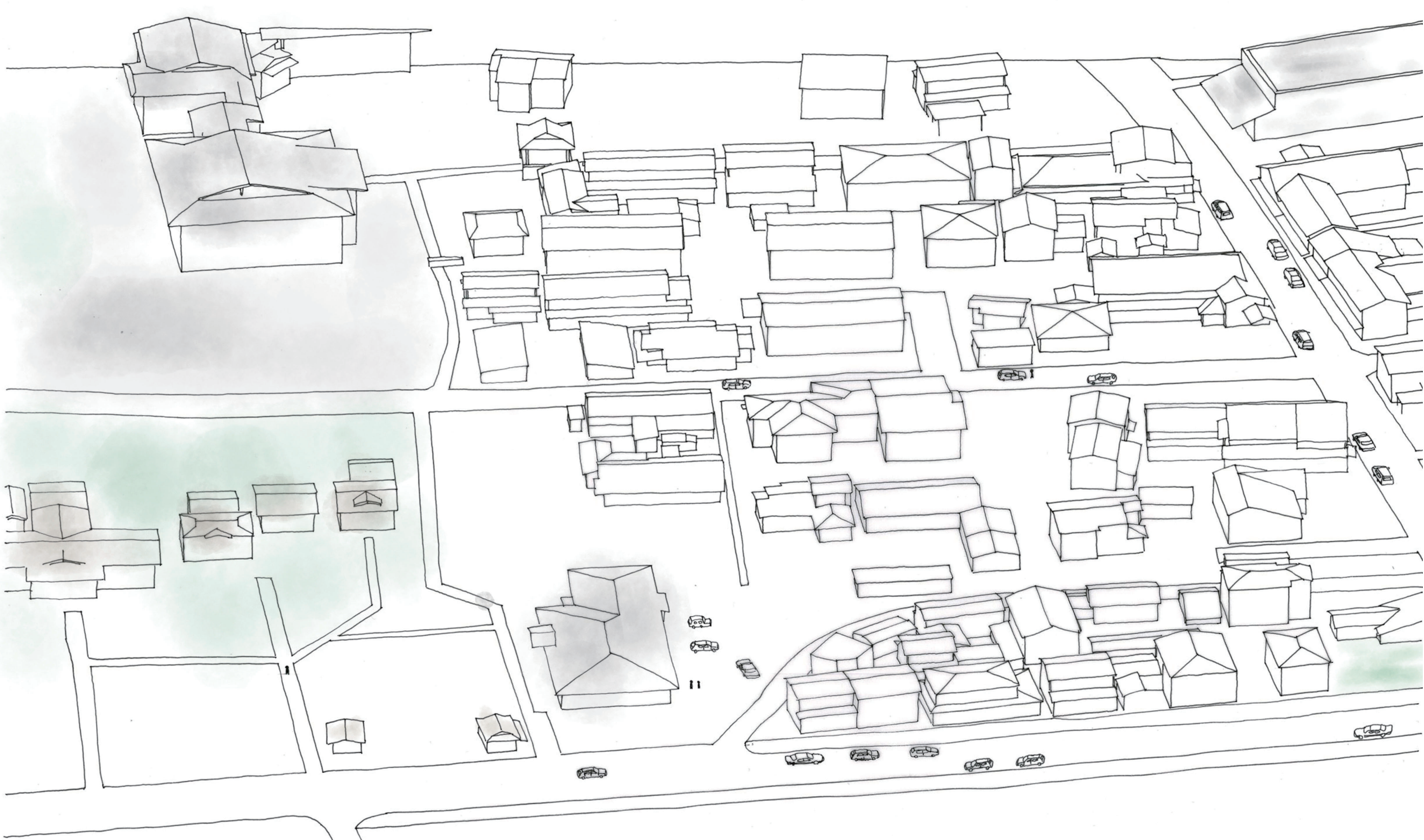
STEP0. 40km/h のまち－現状－ 2022 年



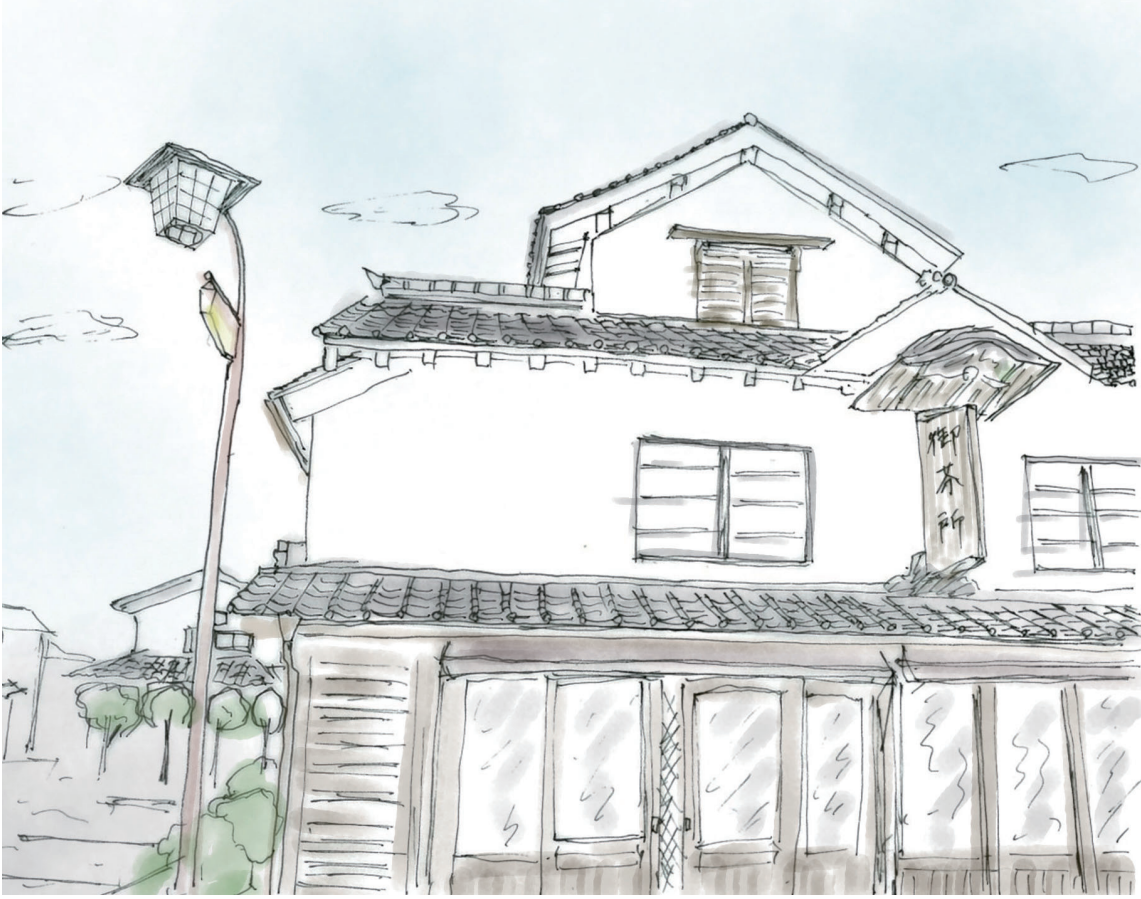
常念寺 ひとづくりの場
寺は仏教を信仰するためでなく、古くから教育や福祉、文化の拠点として存在してきた。



墨坂神社 人々の心の拠り所
山の神を鎮めることで無病息災、五穀豊穰、台風の無事通過を祈る。
その他、夏終わりの御射山祭りや初詣など日本の年中行事が行われる。



須坂市社会福祉協議会
コミュニティづくり
ボランティアや助け合いを通して、あたたかい心のふれあいを形成する。



宇治の園茶舗 日本文化の継承
おもてなしの心を体現するお茶が人々をほっとさせる。

現状の分析

敷地調査を通して、まちの特色、残すべきもの・改善すべき点を整理した。

まちの特色
常念寺や社会福祉協議会といった営利目的でない人々を豊かにするための施設、
墨坂神社や宇治の御茶舗といった日本文化を大切にし伝承していく施設が残っている。

残すべきもの（まちの歴史・文化を伝えるもの）
・蔵
・裏側用水
・瓦屋根
・共用倉庫

改善すべき点
・自動車の交通量の多さ
・歩く人々の少なさ
・緑の少なさ

この町に大切にされてきた文化や建物が多く残っているにもかかわらず、
近代化によってそれらが生かされていないことが問題である。
まちを減速させることで、まち本来の良さや伝統を残した豊かなまちづくりを目指す。

コンセプト

近年、近代化によって人々の生活は便利になっている。一方、近代化によるまちの画一化が問題視されている。
このまちの敷地調査の際にもその片鱗を感じ取ることができた。まちの画一化は減災や効率の良さなどの利点もあるが、この須坂というまちでは
東京などの大都市と同じような発展をしても未来はないだろう。地方都市ではそれぞれの特色を生かしたまちづくりが必要とされている。
そこでイタリア発祥のスローシティ（チッタスロー）の考えを参考にし、まちの減速を目指すまちづくりを提案する。

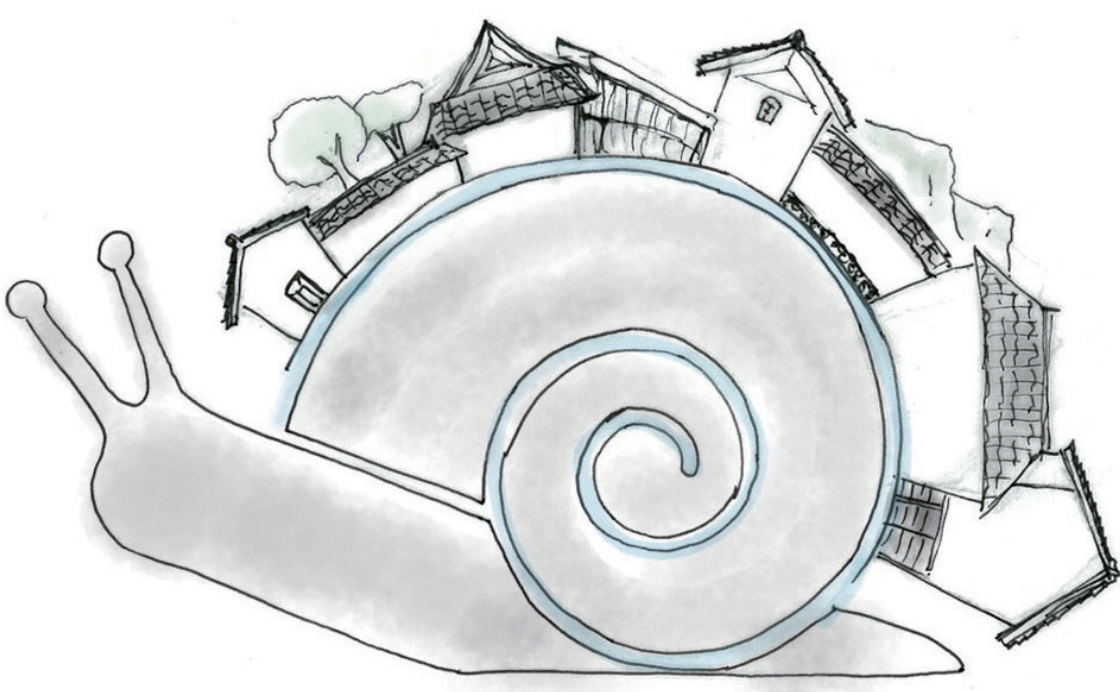
スローシティ：ヨーロッパで広まりつつある「地域の農産物や生活、歴史、文化、自然環境などを大切にした
個性や多様性を尊重した新たなまちづくりを目指すもの」である。

ダイアグラム

スローシティの考えを須坂市に落とし込む。

農産物 → 傾斜地を利用したぶどうやりんごといった果樹園
歴史 → 明治時代の製糸業を支えた蔵、水路
文化 → 共用倉庫の存在から「共有」するという考え
自然環境 → 北信五岳などの山並み

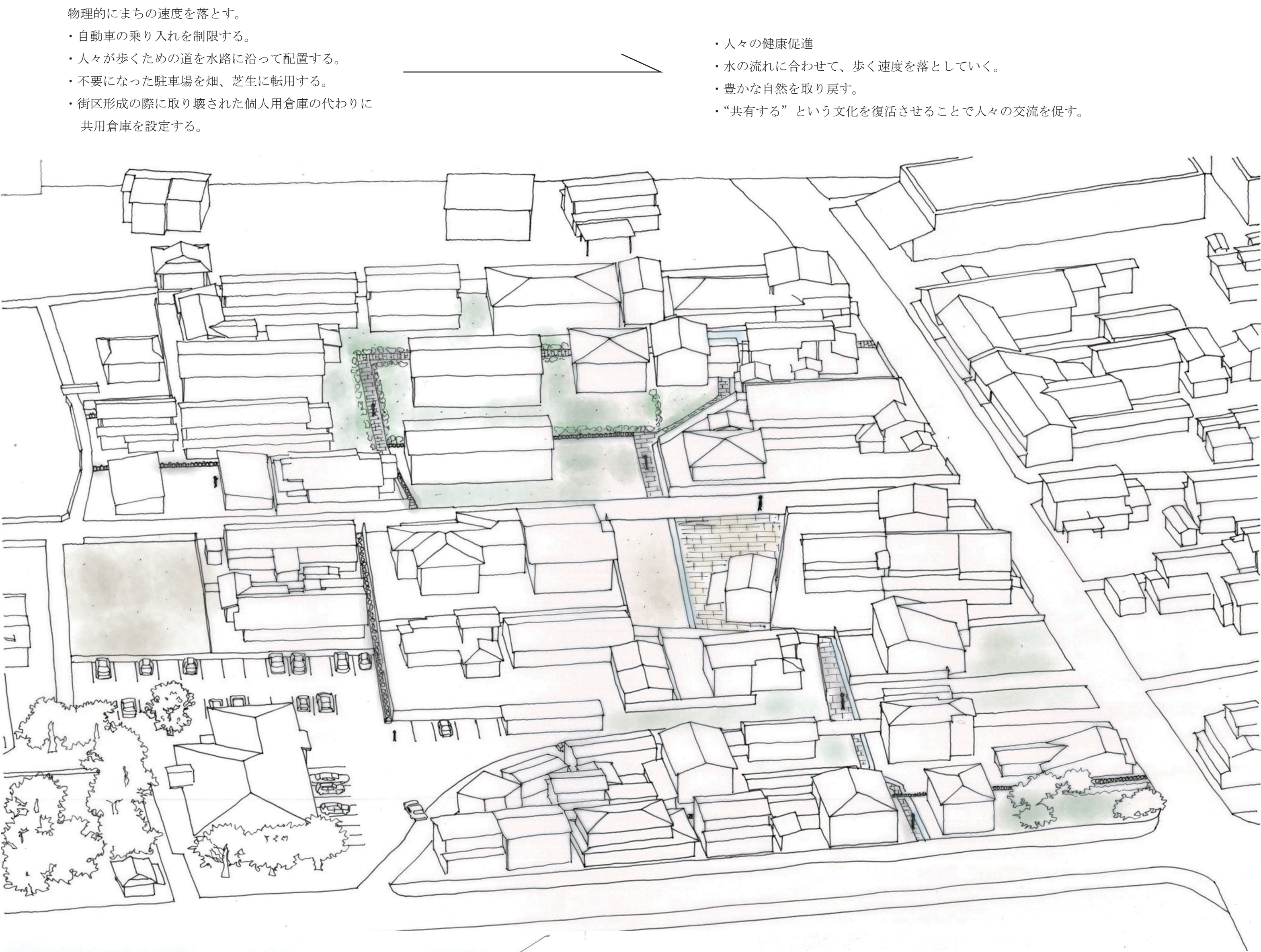
このまちを古くから支えてきた蔵、裏側用水を軸に
信州の山並みを背景に豊かなコミュニティを形成する。



プログラム

2022		
2027	STEP1: 40km/h から 4.0km/h のまちへ	街区の整理 移動手段を自動車から徒歩に切り替える。
2037	STEP2: 4.0km/h から 3.5km/h のまちへ	点の形成 人々がまちを歩ききっかけをつくる。
2047	SEP3: 3.5km/h から 3.2km/h のまちへ	点の拡大 人々がまちを漂う仕掛けをつくる。
3.2km/h のまち		豊かな文化の形成 他の街区とは異なる時間の流れの中で元ある文化を守りながら、 独自の文化が形成されていく。 自治の意識の芽生え 人々がこのまちを愛するようになり、自分たちでより良いまちを 創造しはじめる。

STEP1. 40km/h から 4.0km/h へ - 街路の整理 - 2022 ～ 2027 年



共用倉庫のパース

- ・人々の健康促進
- ・水の流れに合わせて、歩く速度を落としていく。
- ・豊かな自然を取り戻す。
- ・“共有する”という文化を復活させることで人々の交流を促す。

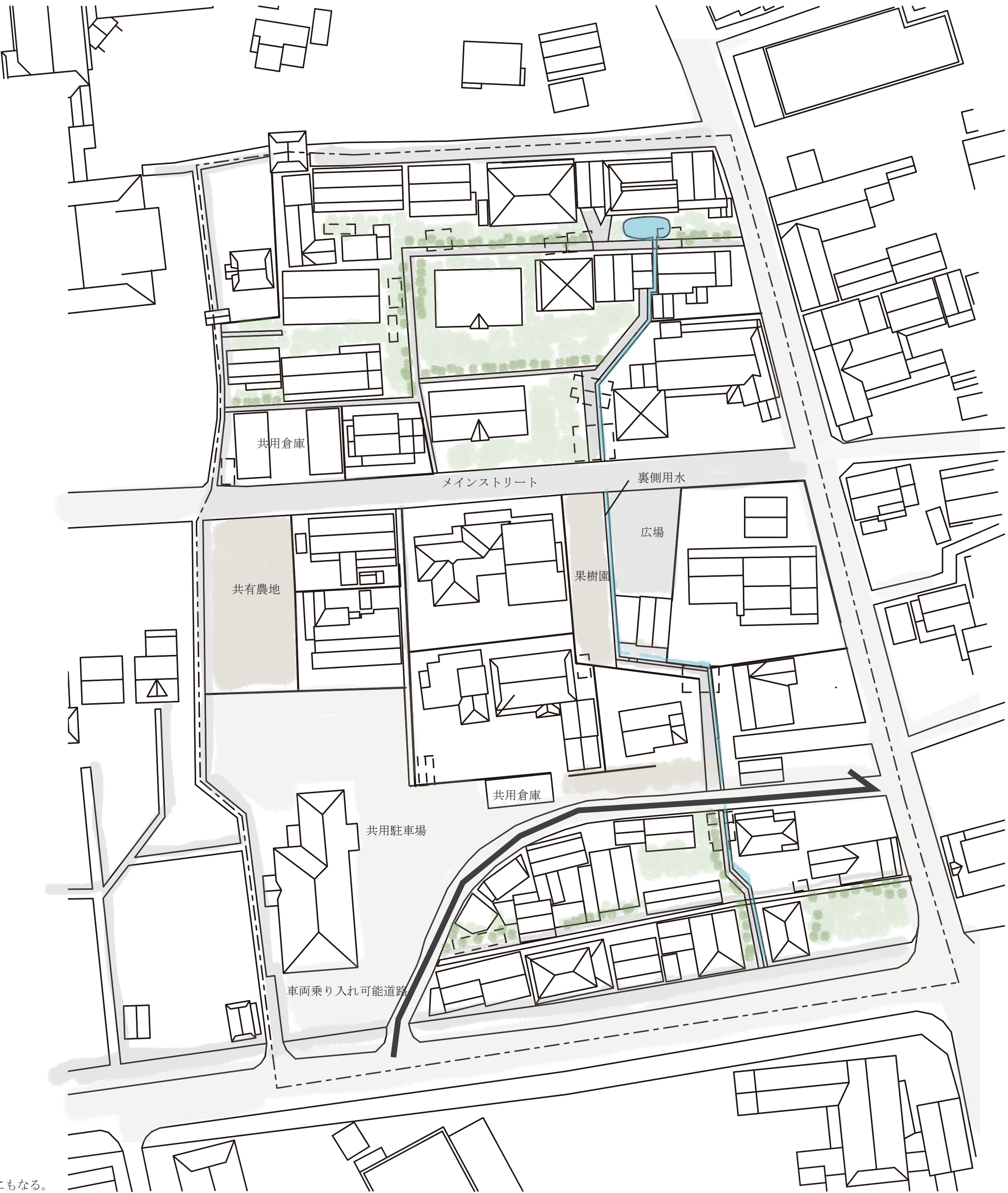
“共有する”

このまちでは古くから農業や製糸業のために裏側用水や水車が共有されてきた。その文化を現代に残すため、共用倉庫・共用駐車場・共有農地をつくる。

共用倉庫
それぞれの荷物を保管するほか、共用農地で使われる農作業道具を保管する。荷物を取りに来た住民同士がばったり遭遇することで自然と挨拶が生まれる。

共用農地
社会福祉協議会を中心に共同で農作業を行う。
ここで栽培された野菜などは地域のイベントで提供される。
栽培野菜：沼目白瓜、八町きゅうり、村山早生ごぼう 須坂市の伝統野菜を伝えることになる。

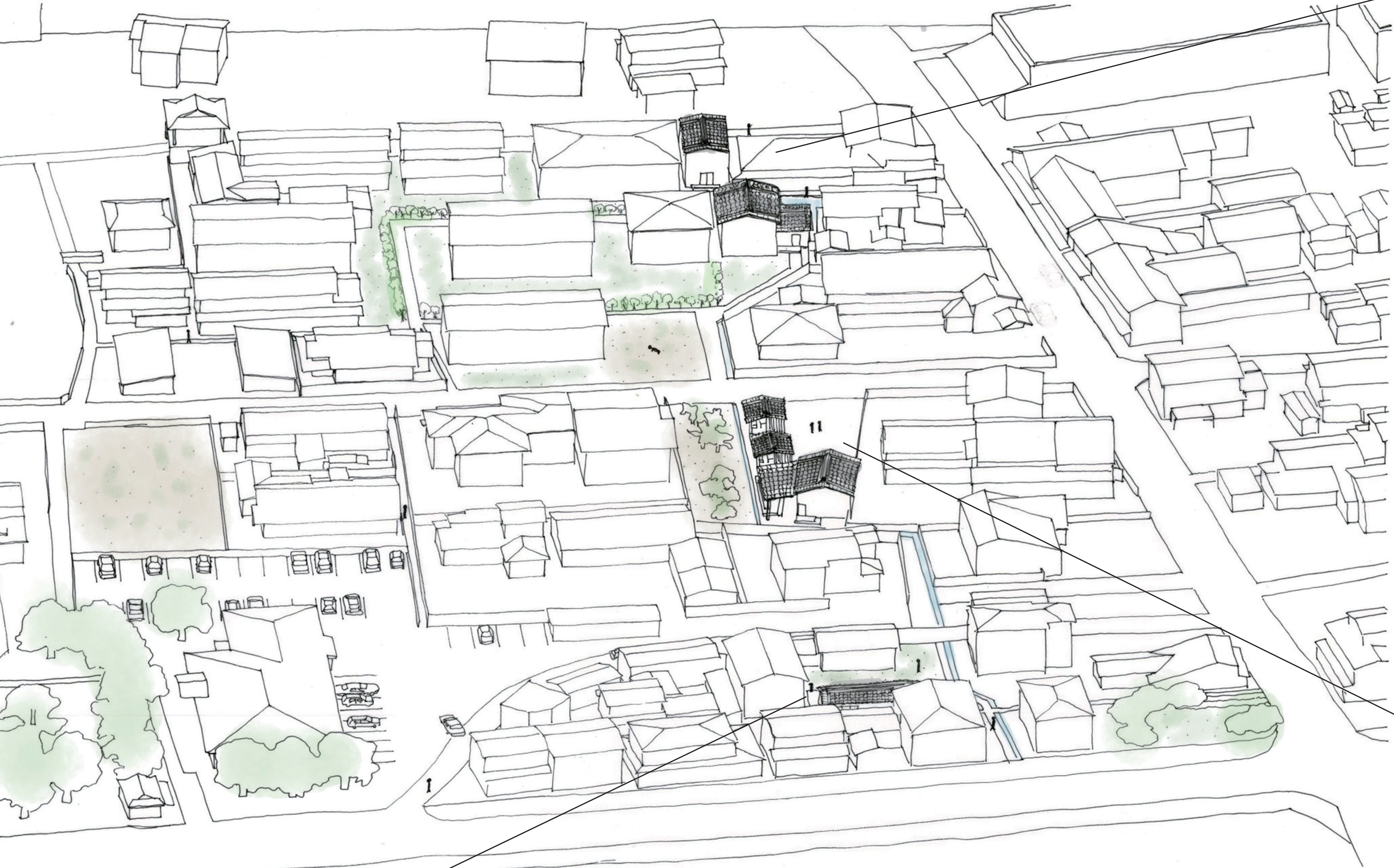
共用駐車場
買い物に行くにも、仕事に行くにも、生活するのに車は必要不可欠である。
つまり毎日、家から駐車場までまちを歩くことになる。
その際にまちのふとした魅力に気づいたり、道で出会った住民とおすそ分けをするようになる。



STEP2. 4. 0km/h から 3. 5km/h のまちへ - 点の形成 - 2027 ～ 2037 年

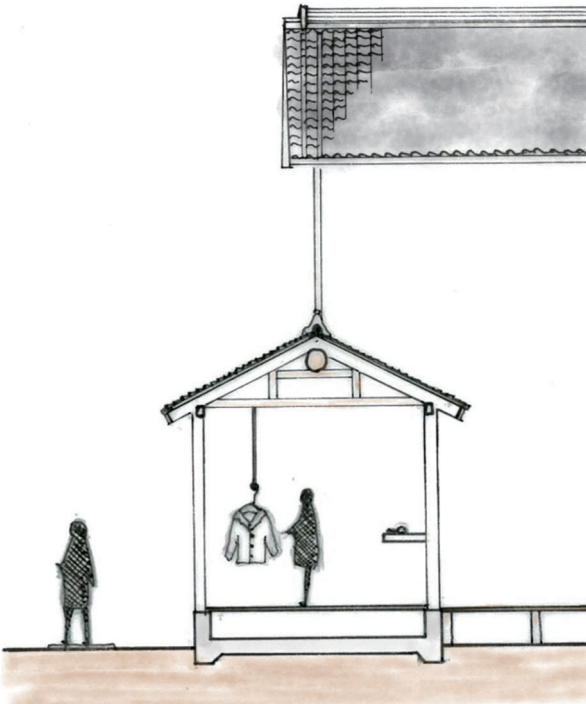
歴史的な建物を活かして、人々がまちを歩くきっかけをつくる。

- ・長屋の古着屋さん
- ・蔵の足湯広場
- ・蔵のワイナリー

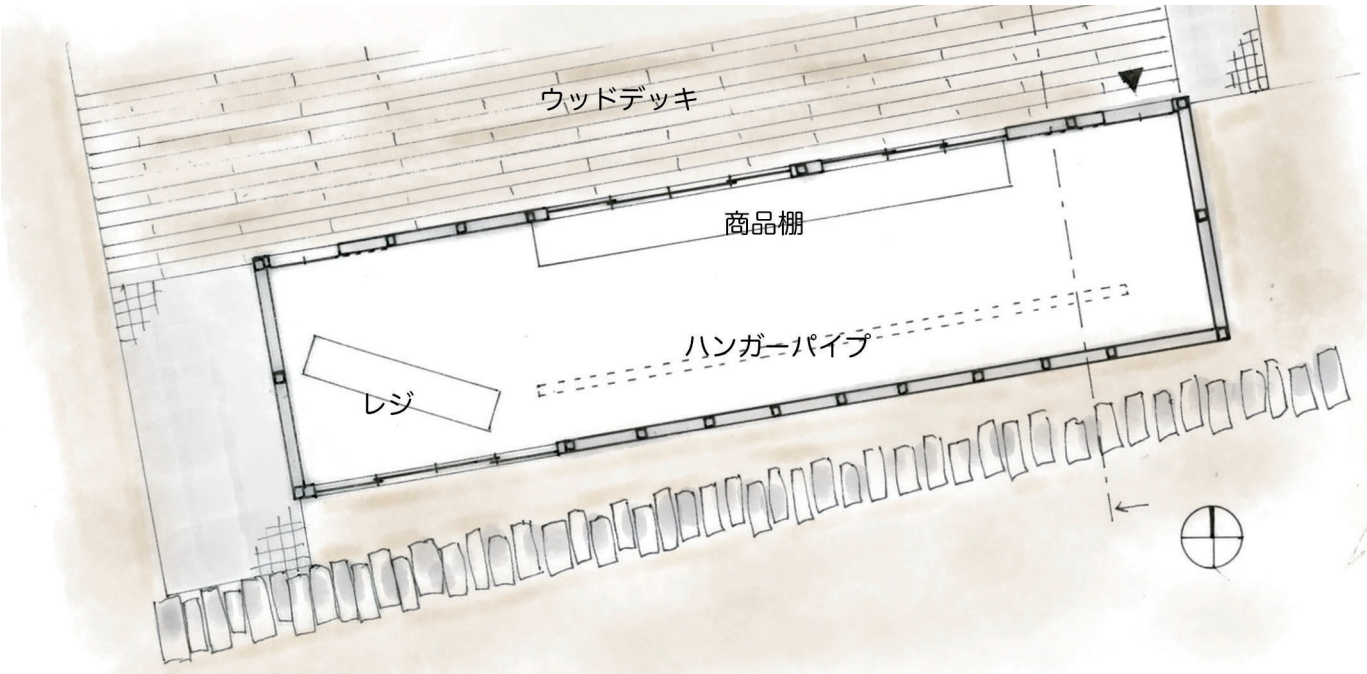


長屋の古着屋さん

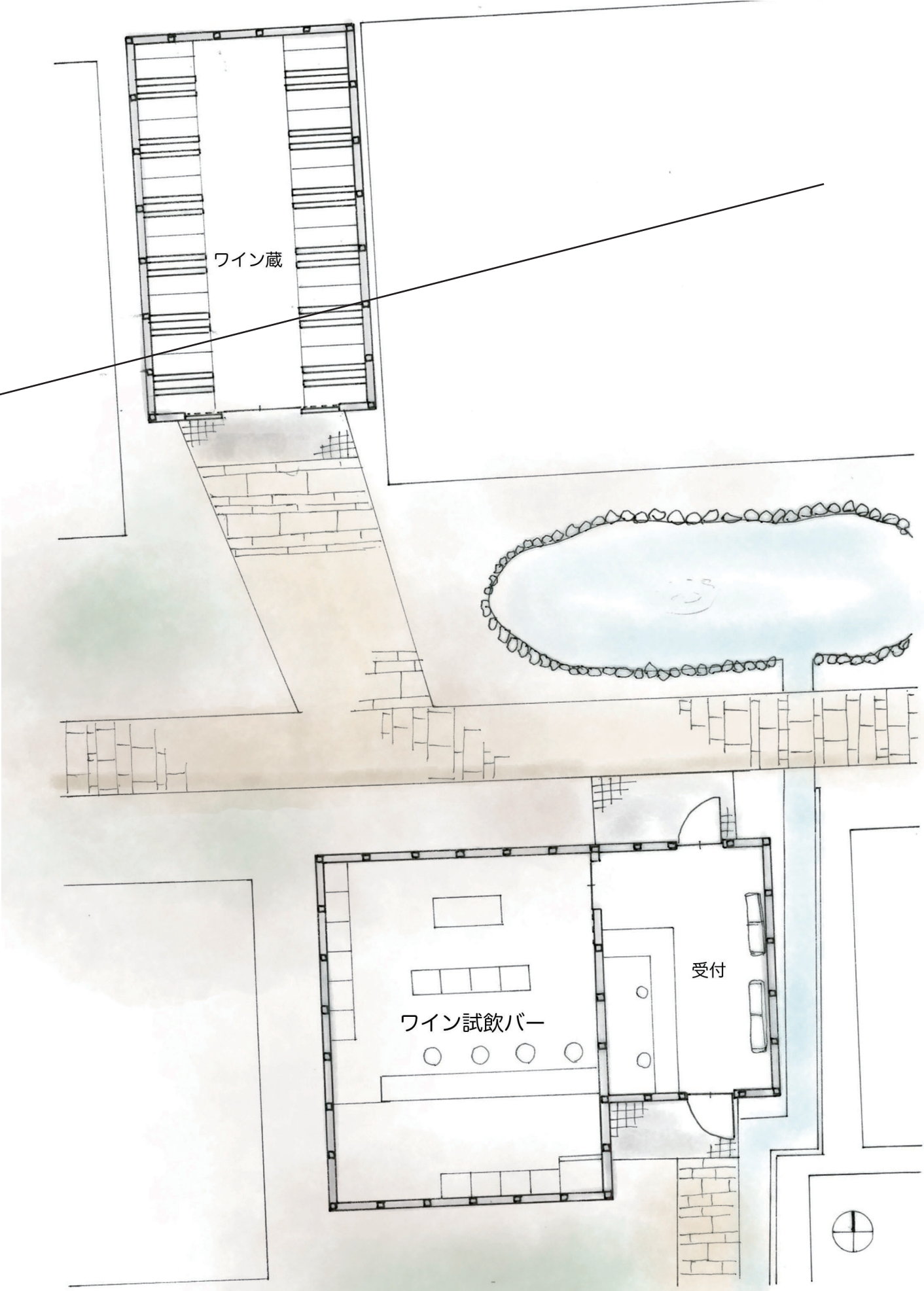
陽があまり差し込まない土地を活かして、太陽の光が大敵である古着屋として長屋を再生する。長屋の長い建物を生かした小屋組に吊るされたハンガーパイプに沿ってずらっと並ぶ古着は魅力的になる。また製糸業で栄えたこの地で古着屋をつくることで、布という資源を大切にする意識を向上させる。



断面図 1/100



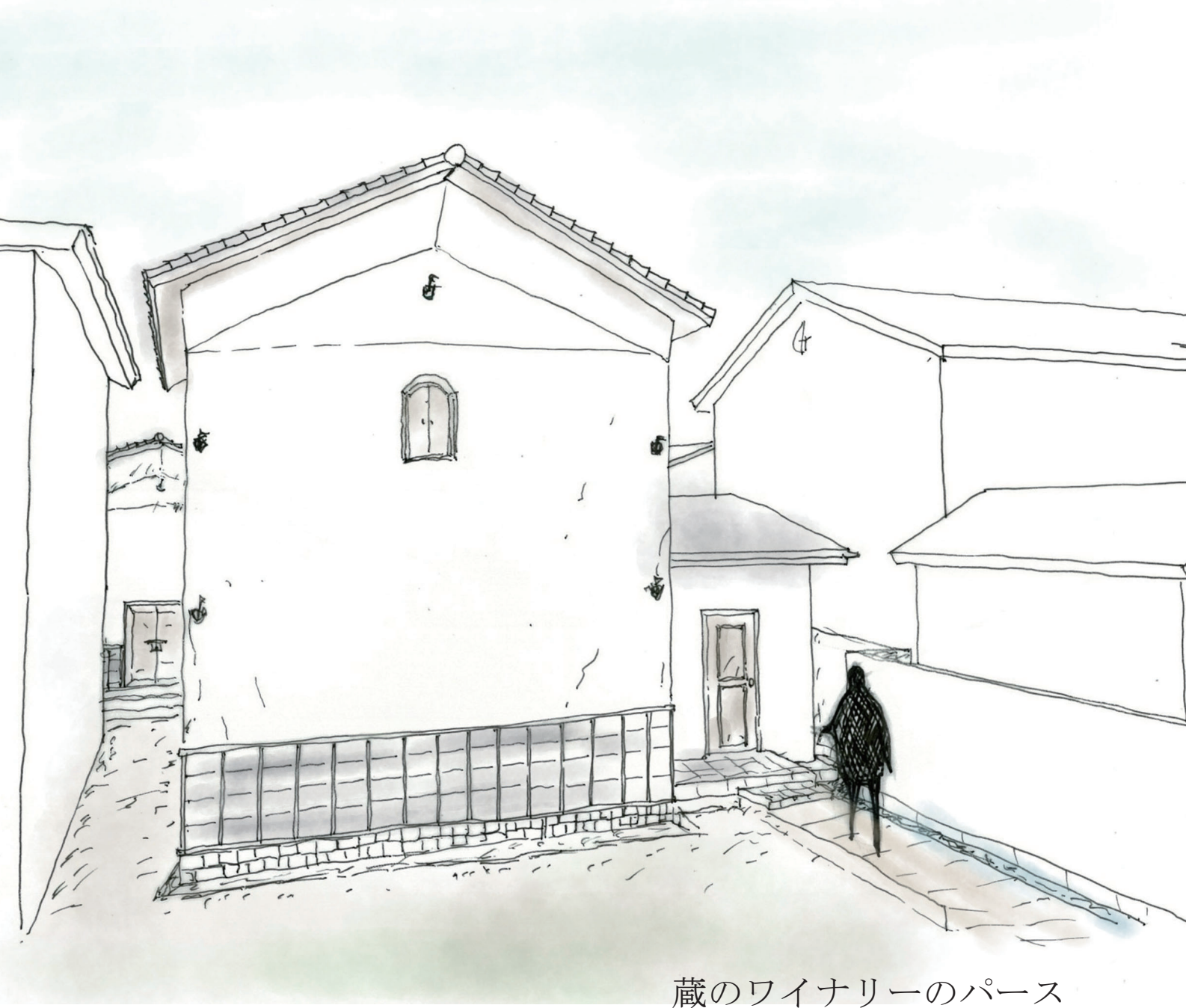
長屋の古着屋さん 平面図 1/100



蔵のワイナリー 平面図 1/100

蔵のワイナリー

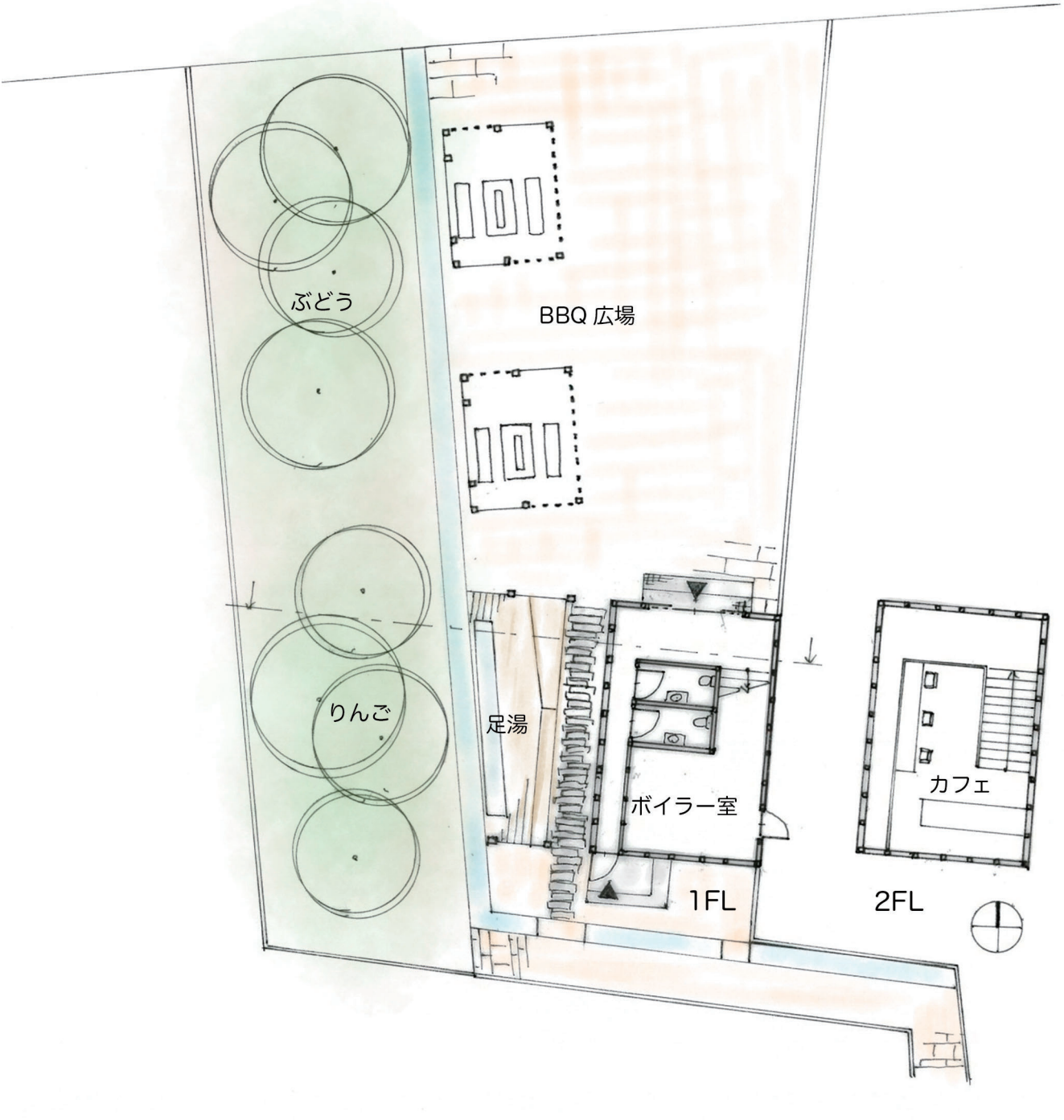
温度と湿度を一定に保つ蔵を須坂市の農産物であるぶどうを活かして、ワイナリーとして再生する。ワインは同じ材料、時期に作られたものでも、発酵時間によって味が変わる。特に時間が経ったものは味わい深くより高い価値が付けられる。人々はワインのその時々を蔵の中で味わうことができる。



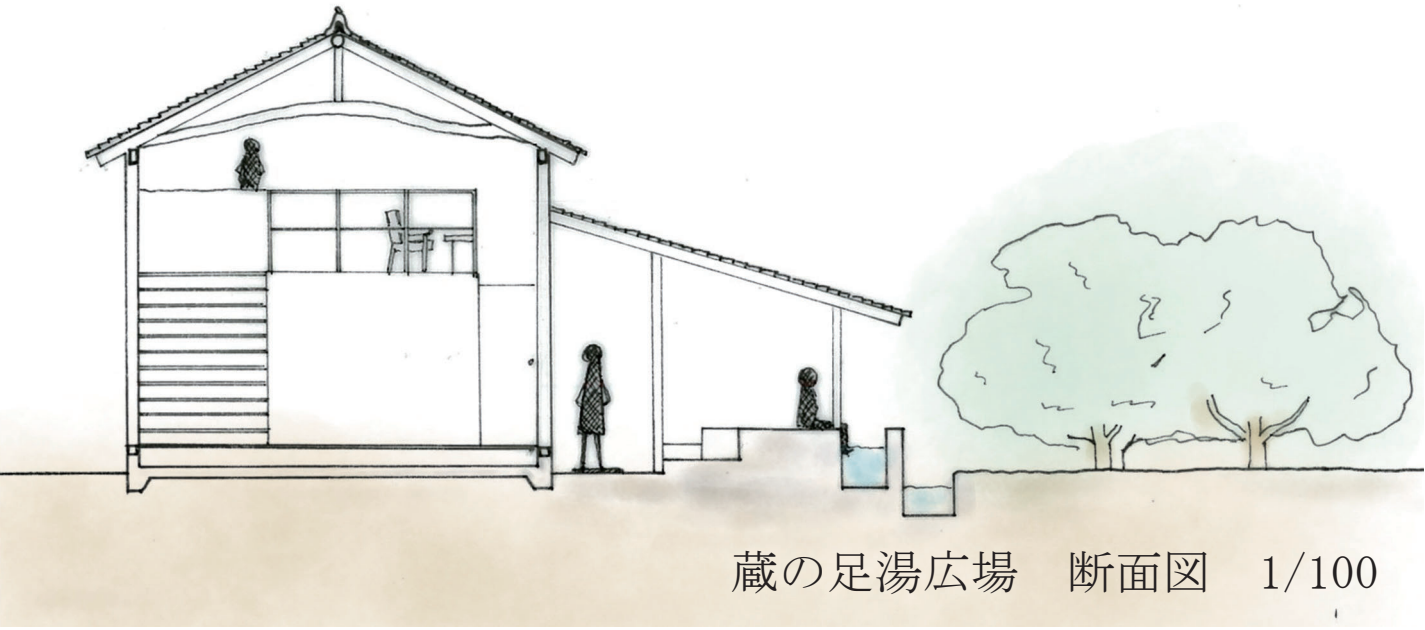
蔵のワイナリーのパース

蔵の足湯広場

裏側用水を流れる水を使って、歩く人の疲れを癒す足湯として再生する。2階にはカフェをつくることで足だけでなく心の中から休憩することができる。足湯の正面にはりんご、ぶどうが育つ果樹園を配置し、木々の四季を感じることで視覚的にも癒される。



蔵の足湯広場 平面図 1/200



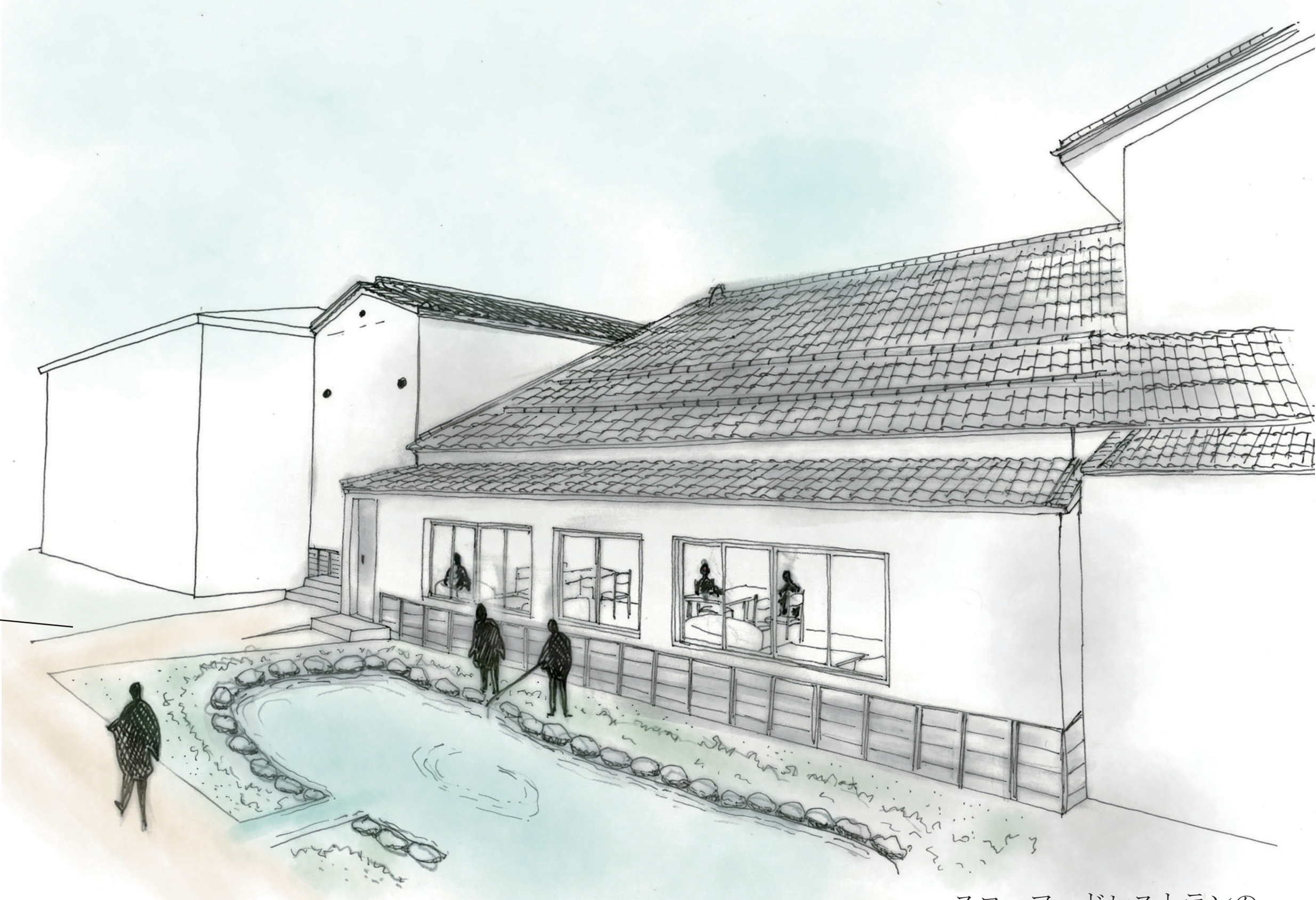
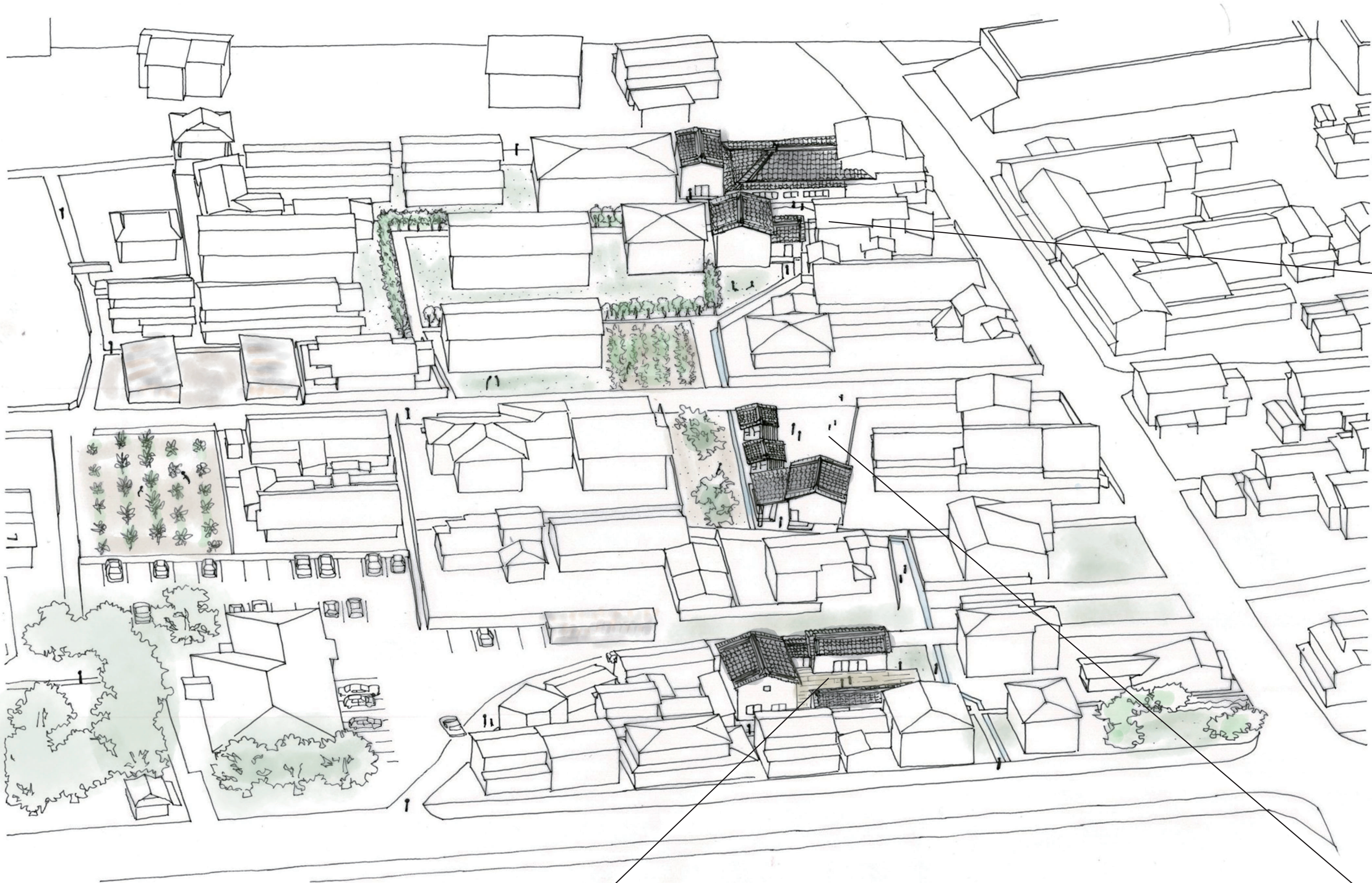
蔵の足湯広場 断面図 1/100



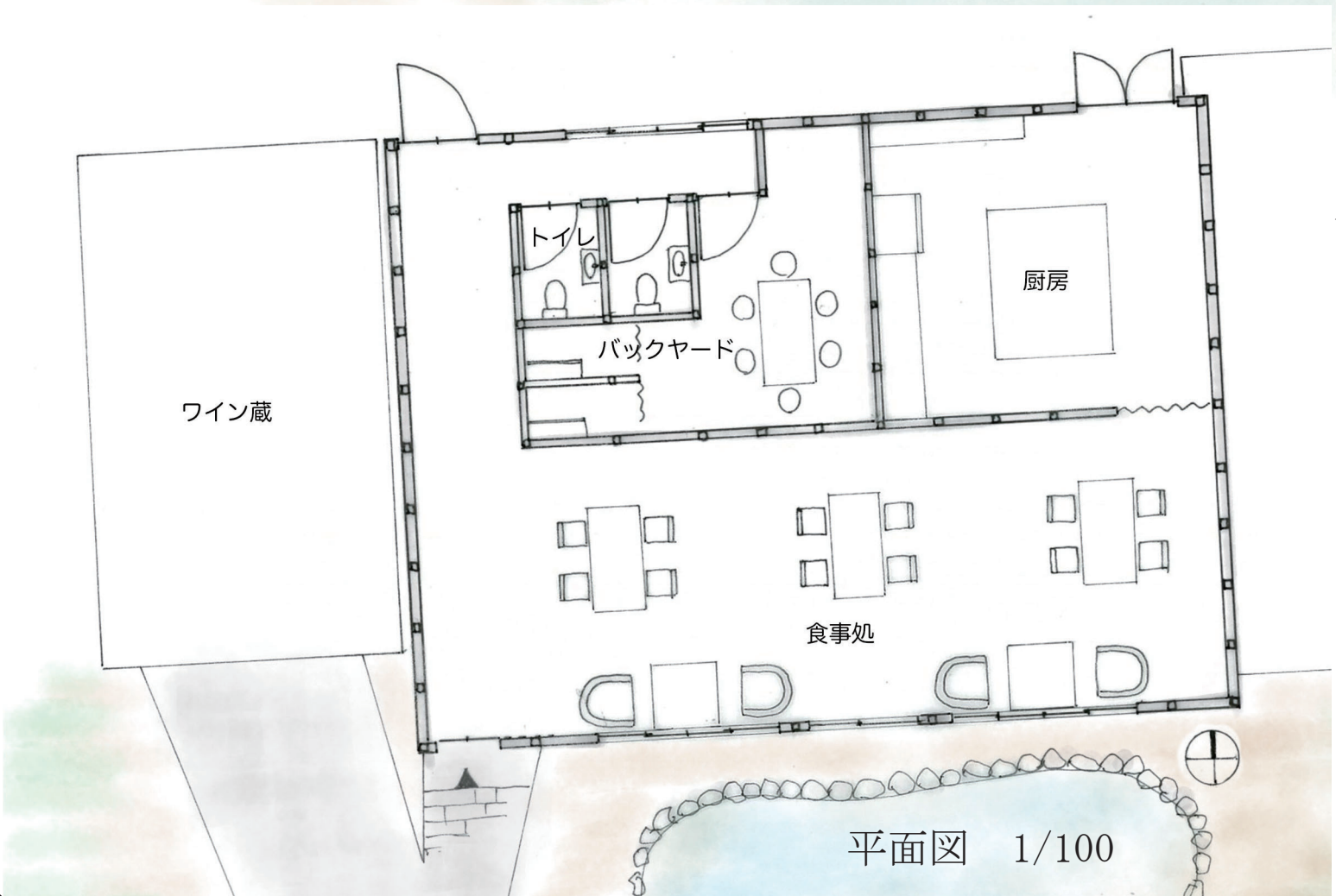
蔵の足湯広場のパース

STEP3. 3.5km/h から 3.2km/h のまちへ - 点の拡大 - 2037 ~ 2047 年

- STEP2 の点を拡大し、人々がまちを漂う仕掛けをつくる。
- ・ウッドデッキ広場
 - ・スローフードレストラン



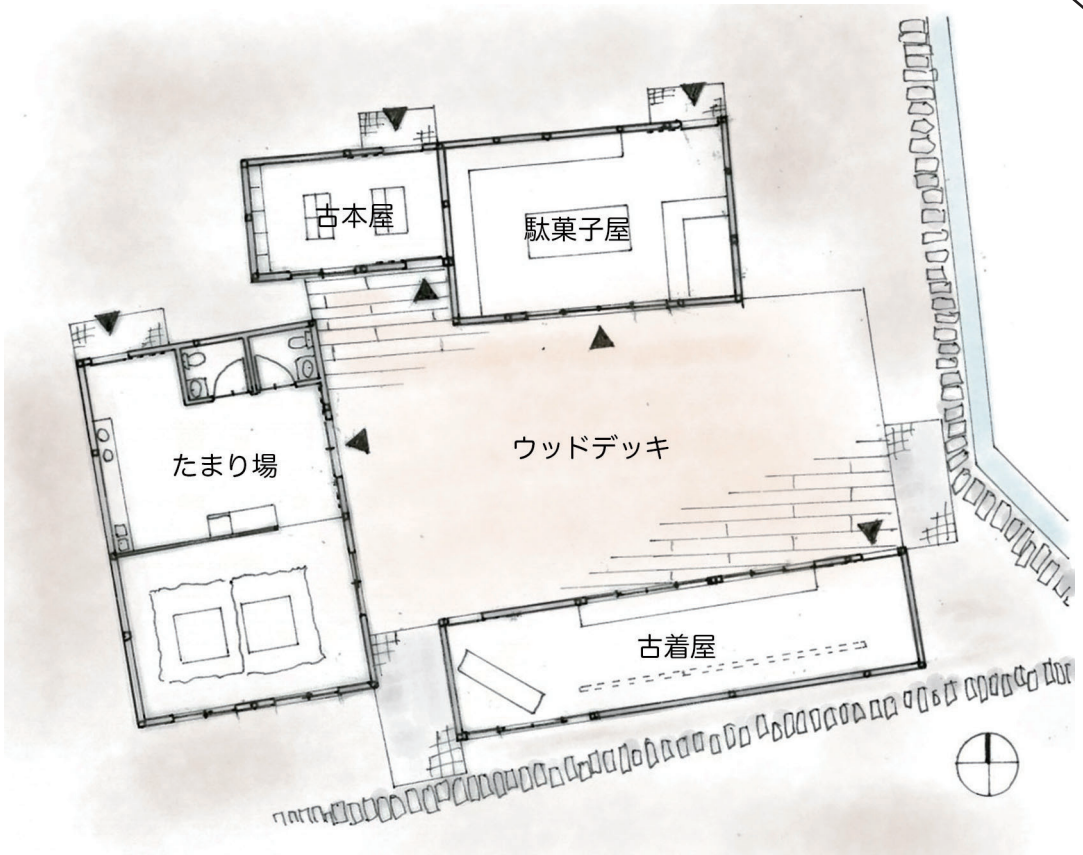
スローフードレストランの
パース



スローフードレストラン

須坂市で採れた野菜や果物を時間をかけて調理した料理を提供する。目の前に広がるため池のさかなを見ながら、ゆっくりとしたランチを楽しめる。

メニュー：土鍋で炊いた須坂産米
沼目白瓜のお味噌汁
村山早生ごぼう入りハンバーグ
八町きゅうりの漬物
須坂産りんごのアップルパイ
須坂産ぶどうジュース



平面図 1/200

ウッドデッキ広場

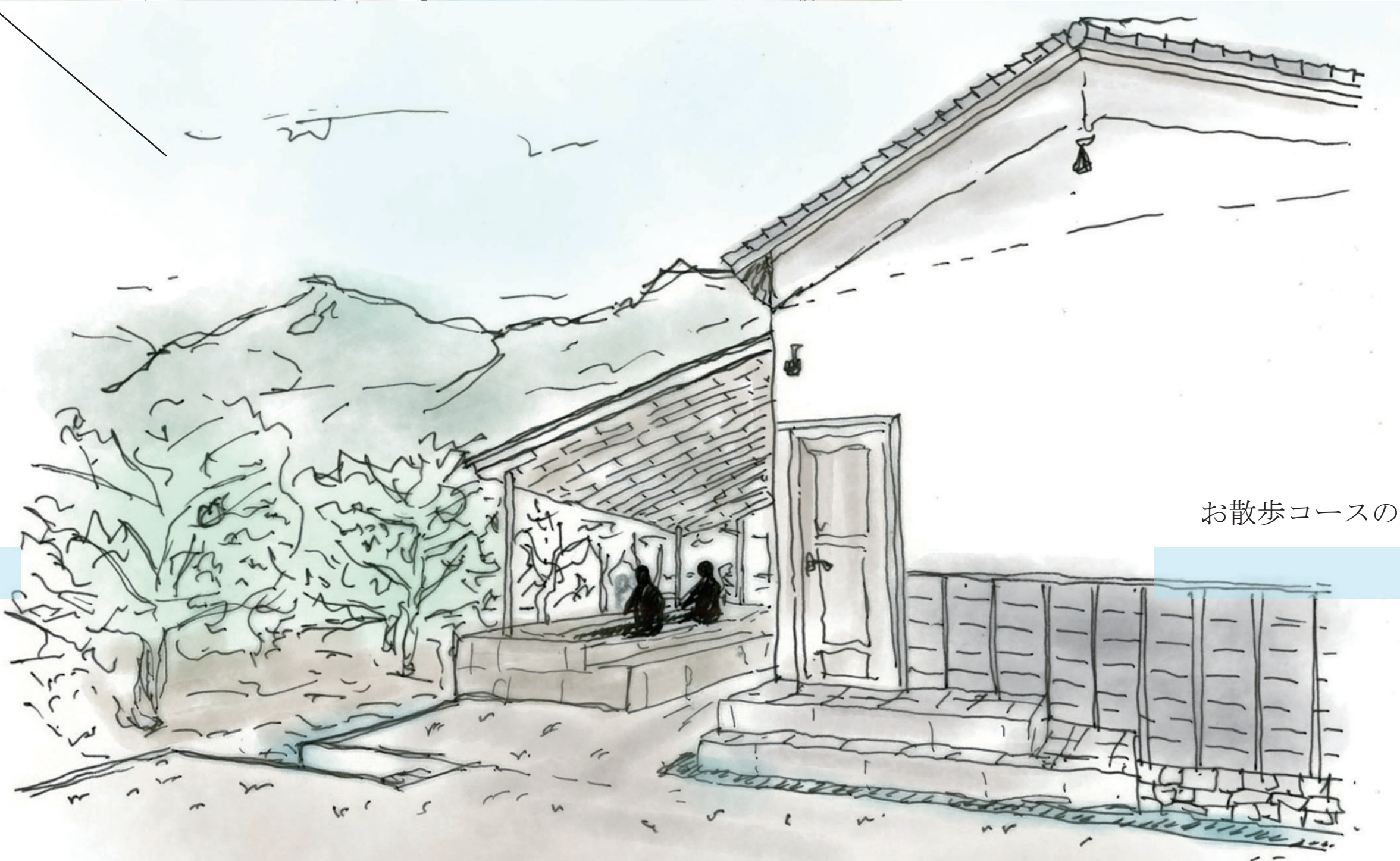
古本屋で買った本に時間を忘れて没頭する。小腹が空いたら、駄菓子屋で昔ながらのお菓子を買う。

たまり場

まちを歩くことを通して芽生えた交流のたまり場となる。そこでは住民が食べ物を持ち寄ってこたつに入りながら夕食を共にし、いろいろなことについて語り合う。その中で自分たちのまちをこれからどうしていきたいのかを模索する。



ウッドデッキ広場のパース



お散歩コースの一例

蔵の足湯広場のパース